

西方音楽館友の会会員募集

- ・A 会員 年会費 4,000 円 入場料 4,000 円→3,500 円
- ・B 会員 年会費 10,000 円 ご招待状年間 2 枚 入場料の割引 (A 会員と同じ)
- ・C 会員 年会費 15,000 円 ご招待状年間 3 枚 同上
- ・D 会員 年会費 20,000 円 ご招待状年間 4 枚 同上

西方音楽館友の会運営委員: 中新井紀子(西方音楽館館長)、岡田龍之介(チェンバロ奏者)、小川和隆(ギタリスト)、木下大輔(作曲家)、高田良久(医師、下野楽遊代表)、中新井諒子(国立音大卒、クラリネット)、永田美穂(音楽学)、山村多恵子(オカリナ奏者)

西方音楽館友の会

A 会員 年会費 (4,000 円) 37 名 148,000 円 B 会員 年会費 (10,000 円) 37 名 370,000 円
C 会員 年会費 (15,000 円) 5 名 75,000 円 D 会員 年会費 (20,000 円) 5 名 100,000 円
合計 84 名 693,000 円 (2024 年 6 月 3 日現在、会費をご納入いただいた方)

友の会へのご寄付 5 件 合計 145,000 円

コンサートは、友の会会費で支えられています。ご支援いただけますと大変ありがたいです。

西方音楽館基金へのご寄付 (一般財団法人西方芸術振興財団預かり)
用途を問わないご寄付 4 件 130,000 円 スポンサー 1 件 500,000 円
合計 630,000 円

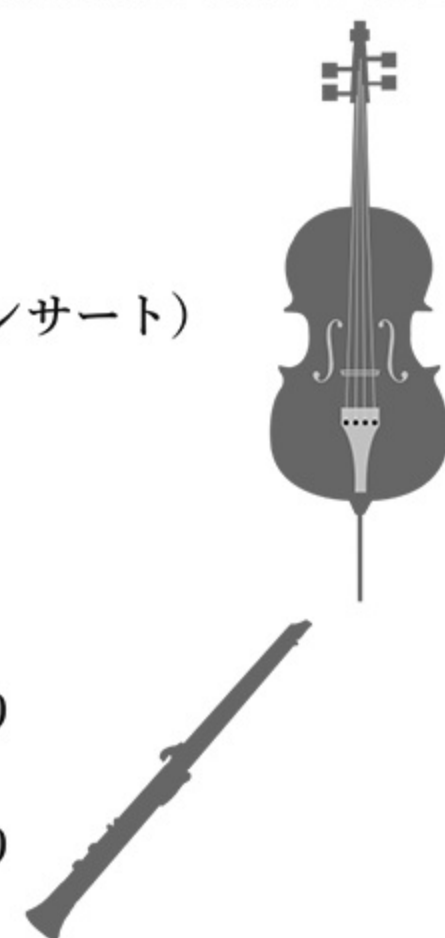
西方音楽館友の会主催コンサート

- 8 月 3 日 (土) 15:30 ~
久元祐子 ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会シリーズ第 2 回 (西方音楽館友の会第 122 回コンサート)
銘器ワルターモデル・フォルテピアノで奏でるベートーヴェン
- 9 月 1 日 (日) 15:30 ~
さかほし矢波 フルトリサイタル (西方音楽館友の会第 123 回コンサート)
ドブラーの作品を集めて 福田素子: ピアノ
- 9 月 22 日 (日) 15:30 ~
ジルバーマンピアノで聴く
J.S. バッハ: ヴァイオリンと鍵盤楽器のためのソナタ全曲演奏会第 1 回 (西方音楽館友の会第 124 回コンサート)
裕美穂子: ヴァイオリン 武久 源造: ジルバーマンピアノ
- 10 月 20 日 (日) 15:30 ~
秋色が深まる~オカリナとピアノの対話~ (西方音楽館友の会第 125 回コンサート)
山村 多恵子: オカリナ 岩崎 良子: ピアノ
- 11 月 10 日 (日) 15:30 ~ 限定 30 席 (早い時期に満席になった場合には、11:30 ~追加公演を行います)
クラヴィコードで聴く J.S. バッハの世界 (西方音楽館友の会第 126 回コンサート)
西野 晟一朗: クラヴィコード
- 12 月 8 日 (日) 15:30 ~
バッハとフランスを結ぶ糸 (西方音楽館友の会第 127 回コンサート)
古楽アンサンブル「ムジカ・レセルヴァータ」
国枝 俊太郎: フラウト・トラヴェルソ&リコーダー 小野 万里: バロックヴァイオリン
高橋 弘治: ヴィオラ・ダ・ガンバ 岡田 龍之介: チェンバロ
- 2025 年
1 月 26 日 (日) 15:30 ~
ヴァイオリンとチェンバロで聴くイングランドの調べ (西方音楽館友の会第 128 回コンサート)
廣海 史帆: ヴァイオリン 中川 岳: チェンバロ
- 3 月 1 日 (土) 15:30 ~
ベートーヴェン ピアノとチェロのための初期作品 vol.3
~ロマン派への架け橋~ (西方音楽館友の会第 129 回コンサート)
チェロ: 高橋 弘治 フォルテピアノ: 荒川 智美



親子のための音楽会

2024 年 8 月 11 日 (日) クラリネットの演奏あり
11 月 4 日 (祝・月)
2025 年 1 月 12 日 (日) クラリネットの演奏あり



こ・ぼ・れ・話

「戦争」の無い人間社会を、
願って止まない。
銃弾、爆弾の代わりに、
美しい音楽を飛ばしたい!
と本気で思っている。

中新井紀子



2024. 6.

木洩れ陽の窓から No. 31

西方音楽館友の会会報

編集・発行人 中新井紀子

西方音楽館

322-0601

322-0601 栃木県栃木市西方町金崎342-1 TEL 0282-92-2815 Web <http://wmusic.jp>

夢の中で願う未来

~しかし、その前に叶ってほしいこと~

中新井紀子

【その昔、人間は「戦争」というものを行っていました。一旦戦争が始まると、敵も味方も、町が破壊され、沢山の人が亡くなりました。それでも、双方、何とか勝ちたいと、戦いを続け、戦争は拡大し、破壊と殺戮が止むことなく続きました。しかし、いくら戦っても、決着はつかず、手の施しようもなく町々が壊され、人間は居なくなるのでは?と思われるほど殺され、それでも良い結果は何も得られませんでした。破壊と殺戮がさんざん繰り返された後、生物兵器、化学兵器、地雷、原爆・水爆等々で、地球上に人間が住める環境の所はほんのわずかしこ残されず、生き残った人間もほんのわずか。そこでやっと人間は、「戦争では何も解決しない。破壊と殺戮の後には、無人の廃墟が残るだけ。」と悟り、「話し合い、理解し合うことで、問題を解決すること」を強く誓い合いました。もはや誰も反対しませんでした。これ以後、人間は「戦争」というものを行わなくなりました。ずっと昔の話です。】

人間は、紀元前から何千年、戦争を繰り返して来たのだろうか。より豊かさを求め、他の民族、他の国の領地を奪い、自国の領土を拡大し、現在の国境が作られたのでしょうか。人間の欲望は、飽くことを知らない。だから、「足るを知れ」とか、「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」とか、「殺すなかれ」とか、人間を戒める教えが生まれたのでしょうか。

現代は、「民主主義・自由主義」対「権威主義・独裁主義」の戦い。「武力による現状変更」が国際法違反であることを前者が後者に訴えても、ほとんど効力を持たない。「民主主義・自由主義」社会にも問題は多々あるけれど、「権威主義・独裁主義」社会が武力や他の手段で他国を侵害したら、止めることが出来ない。そして後者には、正当な人権が無い。世界が破壊つくされる前に、「戦争」の無い人間社会が、実現してほしい。

音楽は、何かの役に立てるのでしょうか?戦争を前にしたら、音楽など、吹けば飛ぶようなもの。つい最近「ぼくの村は戦場だった」という歌を聴きました。音楽で戦争を止めることは出来ないかもしれませんが、戦争がまだ始まっていない時に、このような歌が、たくさんの人々に広まり、国を動かす人たちの間にも広まったら、もしかしたら、戦争を思いとどまらせることが出来るかもしれない。ぜひ、検索して、あるいは何かの機会に聴いてみてください。

そして、辛い時、悲しい時、恐怖に襲われた時、その最中では無理だと思いますが、ふと心が緩んだ瞬間、大好きな音楽が心の中で流れたら、辛さや悲しさや恐怖を乗り越えることが出来るかもしれない。平和な内に、音楽が聴ける内に、心の中に大好きな音楽をたくさん貯め込んでおくと、厳しい状況に追い込まれた時、心を救うことが出来るかもしれない。

※ 最近読んだ戦争に関する本。

「ガザとは何か」(岡真理著 大和書房)、

「戦争は、」(ジョゼ・ジョルジュ・レトリア著 アンドレ・レトリア絵 木下真穂訳 岩波書店)、

「明日は戦場にいるかもしれない」(松富かおり著 窓社)